

## IV 所見

11月の月間目標は、6月時点で未達成であった3項目（座席回りの整理整頓・「黙行の誓い」の唱和ならびに「けじめ」のある実践・隅々まで目配りをした計画的な実践）を再度評価項目に取り入れている。しかし、6月月間目標と比べてみれば、評価はほとんど変わっていない。特に「お手洗い、次の人への思いやり」、「座席回りの整理整頓」についてはわずかではあるが評価が下がっている。これは、客観的に見て生徒の意識が低くなってしまっているのか、また、評価者の基準が高くなったために厳しい評価となってしまったものなのか、このあたり判断が難しいところである。しかし、生徒の意識も向上していなければならない、そう考えると、改善されていない、と考えなければならない。

また、『「黙行の誓い」を唱和し「けじめ」を持って実践できたか』の項目も評価を下げている。生徒部主導の月間目標にある、「駅員に挨拶をする」という項目も評価を下げている。4月当初はきちんと元気よく挨拶ができていたにも関わらず、そのうちに気が緩み意識の低下を招いていることも考えられる。元気に声を出す、という点では、この両者は共通しており、4月当初の緊張感もなくなり覇気が低下しているように思われる。

「座席回りの整理」や「黙行の誓い」、「持ち上げて机を移動」などの項目は、本来もっと「A」評価がついてしかるべきものである。このあたり、徹底した現場指導により早期の改善が期待できるのではないだろうか。

一つひとつの項目を意識づけていくことで、クラス全体の美化意識が高まり、その雰囲気が生徒を成長させる、といった相互作用が期待できる。このあたり日々の清掃活動を通じて、各学級が前向きに取り組み、進歩できるよう今後の成果に期待したい。



